

令和7年度春期 システムアーキテクト試験合格発表 分析コメントと今後の対策

(株) アイテック IT 人材教育研究部 2025,7,3

4月20日（日）に行われた令和7年度春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、システムアーキテクト試験の分析コメントをお知らせします。

今回のシステムアーキテクト試験から、従来午後試験の出題範囲に含まれていた組込み・IoT システム関連の内容がエンベデッドシステムスペシャリスト試験に移行し、午後Ⅰと午後Ⅱ試験の出題数がともに1問減って、それぞれ3問と2問になりました。

■システムアーキテクト試験（SA）

〔令和7年度春期 システムアーキテクト試験 統計情報〕

応募者	6,021 人
受験者	3,963 人
合格者	616 人
合格率	15.5 %

令和7年度春期のシステムアーキテクト試験の合格率は15.5%で、前回の15.0%から少し上がりました。現在の試験制度が始まった平成21年以降では3番目に高い結果といえます。

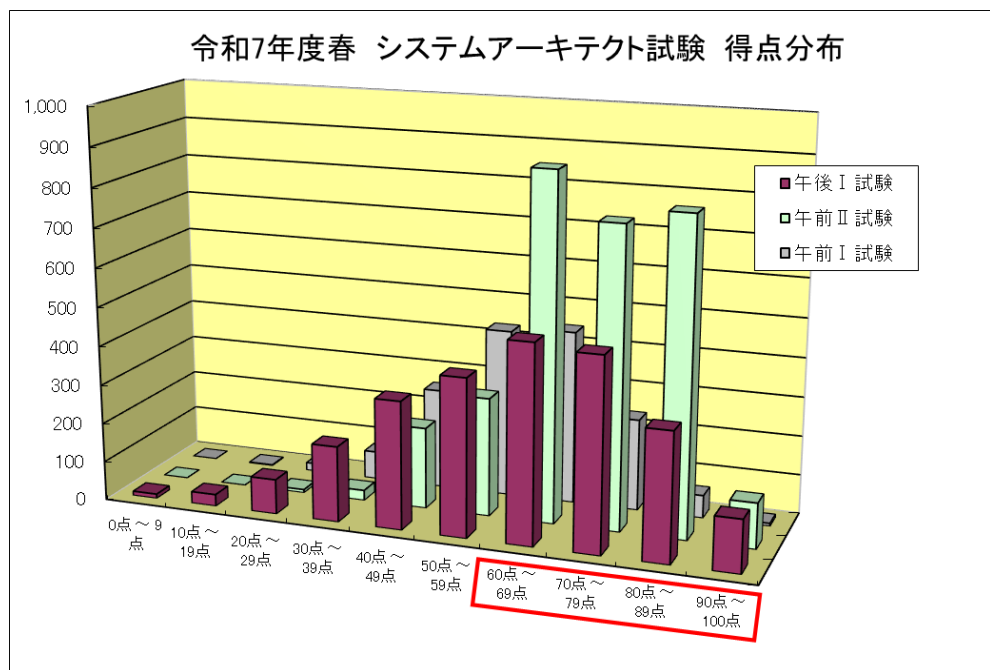
次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

〔令和7年度春期 システムアーキテクト試験 スコア分布〕

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	0	0	11	D152	
10点～19点	2	0	30		
20点～29点	20	8	89	C205	
30点～39点	72	26	193		
40点～49点	256	208	326	B468	

50点～59点	429	302	401		
60点～69点	442	878	503	616	
70点～79点	234	761	489		
80点～89点	58	797	326		
90点～100点	7	116	134		
計	1,520	3,096	2,502	1,441	616
対前試験比率		203.7%	80.8%	57.6%	42.7%
午前Ⅰ免除者（概数）	2,443	61.6%			

合格者数	616	採点者数の割	合格者数との
午前Ⅰ60点以上合計	741	48.8%	125
午前Ⅱ60点以上合計	2,552	82.4%	1,936
午後Ⅰ60点以上合計	1,452	58.0%	836
午後Ⅱ-A評価	616	42.7%	0



午前Ⅰ試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回システムアーキテクトの午前Ⅰ試験免除者は概算で2,443人（61.6%）でした。

午前Ⅰ試験で基準点（60点）以上の人は741人（受験者の48.8%）で、前回の59.6%と比べて11%ほど低くなっています。

午前Ⅱ試験で基準点以上の人は2,552人（受験者の82.4%）で、前回の83.4%から1%低くなっていますが、ほぼ同じ結果といえます。

午後Ⅰで基準点（60 点）以上の人は 58.0%で、前回試験の 59.6%から少し低くなっていますが、ほぼ同じ結果といえます。

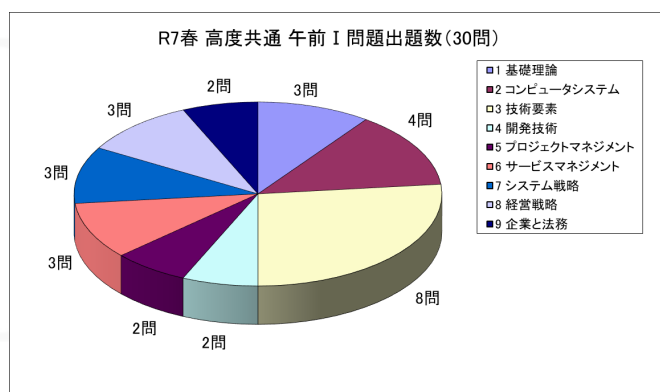
午後Ⅱの論述式試験で合格点（A 評価）を取ることができた人は 42.7%で、こちらは前回の 39.5%から 3%ほど上がっています。

■令和 7 年度春期 システムアーキテクト試験 出題内容について

〔午前Ⅰ試験（高度試験の共通知識問題）〕 30 問出題／30 問解答，50 分

高度試験で共通して出される午前Ⅰ試験の 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験（AP）の午前試験 80 問の中から選ばれていて、テクノロジー系 17 問（57%）マネジメント系 5 問（17%）ストラテジ系 8 問（26%）という出題比率です。

午前Ⅰ試験には免除制度がありますが、高度試験を受ける人の約 4 割が午前Ⅰ試験から受験しています。今回の午前Ⅰ試験で 60 点以上の得点で突破できた人は高度試験全体で 44.6%いましたが、これまでは



5～6 割の突破率なので、今回の試験が難しかったことを示しています。出題範囲が広いため問題を難しく感じる人がかなり多く、最初の午前Ⅰ試験でつまづかないように、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識をつけていく必要があります。

・今回の午前Ⅰ試験は、6 割が過去問題でしたが、文章問題が減って、難しい問題も含む考察問題が増え、前回より解きづらく難しい試験だったといえます。

・重点分野のセキュリティの出題数は前回と同じ 4 問で、最も多い出題数です。

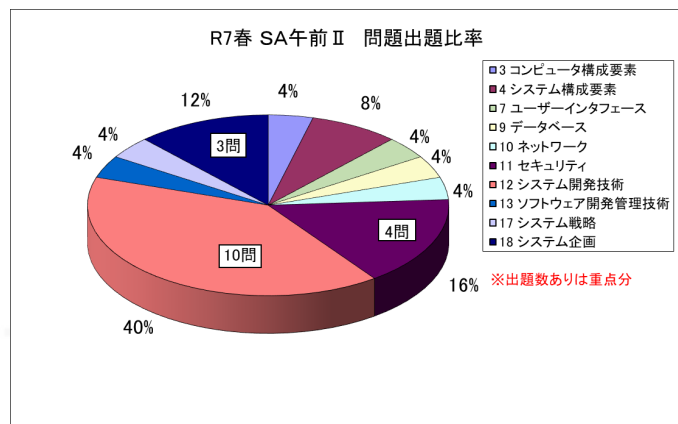
・新傾向問題は 8 問で前回の 3 問から大きく増え、このことも試験が難しかった理由といえます。

〔午前Ⅱ試験（専門知識問題）〕 25 問出題／25 問解答，40 分

システムアーキテクト午前Ⅱ試験の重点出題分野は，システム開発技術とシステム企画，セキュリティですが，システム開発技術の出題が多いです。今回，品質，レビュー，テスト関連問題が 3 問ありましたが，令和 5 年試験以降同じ出題数です（以前 7 問のときあった）。なお，セキュリティの出題が 4 問（前回 5 問）あり，他の IT ストラテジストや IT サービスマネージャ試験よりも多い出題数になっています。今回の試験から加わったユーザーインターフェース分野からは 1 問出題されました。

新傾向問題は 5 問（前回も 5 問）で，テスト関連の知識，マイクロサービスアーキテクチャ，アジャイルなどについて理解しておく必要があります。

過去問題は全体の約 6 割ですが，今回のシ



ステムアーキテクト試験の過去問題は 7 問（前回 11 問）あり，R5 年と R4 年が各 1 問，R3 年 2 問，H28 年 1 問，H27 年 2 問と分散していました。直近 4 回分ぐらいの過去の試験問題は重点的に理解しておきましょう。

〔午後Ⅰ試験（記述式）〕 3 問出題／2 問解答，90 分

今回の試験から組込み／IoT システムの事例問題がなくなり，3 問出題に変わりました。出題された内容は，問 1 が自治体がソフトウェアを利用する際の工夫を題材とした新内容の問題，新しい内容として問 2 で RPA とローコード開発について，問 3 で AI 技術の導入が事例に含まれています。

- ・ 問 1 消耗品の集中購買化とそれに伴う業務システムの新規構築（自治体） 普通～やや難
- ・ 問 2 営業活動を支援するシステム（医療機器販売・導入支援サービス会社） 普通
- ・ 問 3 不動産売買仲介システムの再構築（不動産売買仲介システム） 普通

〔午後Ⅱ試験（論述式）〕 2問出題／1問解答，120分

今回の試験から組込み／IoT システムの事例問題がなくなり，2問出題に変わりました。今回の午後Ⅱ問題では設問アで記述する最低文字数（400字以上）の指定が加わりました。

問題内容は次のとおりで，問1は複数システムからのデータ収集と指標提供機能の設計を聞く新しい内容で，問2はシステム移行全般ではなくデータ移行について記述することに注意する必要があります。2問とも実際の経験がないと記述しづらい内容だったといえます。

- ・ 問1 複数の情報システムのデータを収集する必要がある指標の提供について
- ・ 問2 現行システムと新システム間の差異を踏まえたデータ移行について



